

和仏法律学校講義録

中村, 進午 / 秋山, 雅之介 / 塚田, 達二郎 / 竹井, 耕一郎
/ 鈴木, 英太郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

1-11

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

38

(発行年 / Year)

1903-04-06



（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月廿一同一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十八日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年四月六日發行

三十六年度 第一學年ノ十一



和佛法律學子校講義錄

號八拾（第）

和佛法律學校

國家アリト謂フコト能ハス(二)ノ點ニ於テ論者ハ天皇ノ機關ノ中ニ於テ重要缺
 タヘカラナルモノトスルトキハ國體ト相容レザルノ憂ナシトス此論ハ或程度
 マテハ道理アリ即チ天皇ヲ以テ重要缺タヘカラサルモノト看做スコトハ固
 リ爭フヘカラズ然レトモ一般機關論者ハ議會モ亦天皇ト同シク一國ノ成立ニ
 缺タヘカラサル機關ナリト爲ス然ラハ更ニ此論ヲ推シテ國務大臣モ國家ノ作
 用ニ必要ナルモノナルカ故ニ同シク重要缺タヘカラス裁判所ハ國家ノ司法權
 行使ニ必要ナルモノナルカ故ニ亦重要缺タヘカラスト論シ去ルコトヲ得ヘシ
 畢竟憲法上ノ機關ニシテ何レカ重要ナラサルモノアラシヤ兎ニ角論者ハ重要
 缺タヘカラサルモノト然ラサルモノトノ區別ヲ何ノ標準ニ據リテ求メントス
 ルカ洵ニ曖昧ナリトノ批難ハ決シテ免ルヘカラス論者ハ天皇ヲ人體ノ腦髓ニ
 譬ヘタリ腦髓固ヨリ必要ナリ然レトモ腦髓以外ニ必要ナルモノナシト謂フヘ
 ケンヤ(三)又(四)ニ於テ(五)ニ於テ(六)ニ於テ(七)ニ於テ(八)ニ於テ(九)ニ於テ(十)ニ於テ
 一步ヲ進メテ論スレハ此說ハ如何ナル論法ヲ用フルニ拘ハラズ天皇ハ國家ノ
 目的ヲ達スル爲メノ一機關ナリト爲スモノナリ果シテ然ラハ他ニ國家ノ目的

ヲ達スルニ便利ナルモノアリトセンカ國家ハ天皇ニ代フルニ他ノ種類ノ機關
 ヲ以テスルコトヲ得ト謂ハサルヘカラス論者或ハ曰ハシ此ノ如キハ我國體上
 之ヲ許サスト然ラハ何故ニ論者ハ主體說ヲ採ラザリシヤ既ニ機關說ヲ採レバ
 理論上國家ハ其目的ヲ達スルニ必要ナリトスルトキハ機關ノ組織ハ如何様ニ
 モ之ヲ變更スルコトヲ得サルヘカラス現ニ憲法第百七十三條ニ依リ憲法改正
 ノ手續ヲ設タルカ故ニ必要ノ場合ニハ此手續ヲ踐ミ憲法上ノ機關ノ變更ヲ試
 ムルコトヲ得ヘキ道理ナリ例ヘハ憲法第一條ノ改正ヲ(一)モ爲スコトハ理論上
 不都合ナキニ非スヤ然ルニ此ノ如キハ我國體ト一致モス畢竟我國體上圓滿ニ
 説明ヲ爲スニハ如カナルナリ然ルニ或ハ曰ク國家ハ無形人ナリ國家ノ意思ハ
 實際最高機關タルモノノ意思ニ外ナラス最高機關タル天皇カ自ら變更ヲ行フ
 ノ意思ヲ生スル如キコトハ實際アルヘカラスト然レトモ此論ハ唯事實ノ推測
 ニ過キス理論上一ハ他ノ機關タリト視ル以上ハ前述ノ批難ハ免ルヘカラス
 又或論者ハ曰ク天皇ヲ國家ナリト論スルハ國際法理ニ於テ認ムル能ハサル所
 ナリト然レトモ既ニ述ヘタル如ク今日行ハルル國際法上ノ觀念ハ國內法上ノ

觀念ト一致シ難キ點アリ之ヲ混合スルトキハ屢誤ヲ生スル恐ナルヨリ前記述ヘタリ故ニ國際法上ノ説ヲ以テ直チニ此處ニ述ブル國內法ノ理論ヲ承認スヘカラス(三)ニ論者ハ憲法ニ「天皇ハ國ノ元首云々」トアルヲ以テ機關説ノニ證トスレドモ是レ字句ニ拘泥セル解釋タルヲ免レシ況ヤ字句ヨリアルモ國ノ元首ト云フニ必スシモ國家ノ機關ト解スル必要ナク「國ノ主長トシテ其全權ヲ掌握スル者即チ統治ノ主體ヲ稱スト解ズル」何ノ差支アルコトナシ

以上述フル如ク天皇ヲ機關ナリトスル説ハ適當ナラス況シテ或學者ノ如ク天皇下議會トシテ同一ノ地位ニ列シテ同シク國家ノ直接機關ナリト論スルハ爲メ可ナリト謂フサルヘカラス

(乙) 天皇ハ統治ノ主體ナリトノ説 予モ此説ニ與スル者ナリ即チ我國法上天皇ハ統治ノ權能ヲ有スト爲ス故ニ若シ此萬世一系ノ天皇ナカランカ統治ノ主體ヲ失フコトト爲ルカ故ニ日本國家モ亦絶滅ニ歸セサルカラス外國ニ在リテハ既ニ述ヘタル如ク君主ハ主體ニ非サルカ故ニ君主ナクシテモ主體ハ依然トシテ存續シ毫モ其國家ニ影響ヲ及ホササルモノトス我國ト國體ノ異ナル所此

處ニ在リ

我國學者ノ中ニ在リテ大體主體説ヲ贊スルモノ拘ハラズ尙ホ左ノ見解ヲ抱ク者アリ或者ハ曰ク天皇ハ統治權ノ體ヲ有スルノミ其用ハ他ノ機關カ之ヲ有スト然レトモ統治ノ主體ト言ヘハ體用ヲ具足スルモノヲ謂フナリ若シ其一ヲ缺ケハ完全ナル統治權能ト謂フコト能ハズ事實上他人カ其用ヲ行フモ是レ主體ノ機關トシテ行フモノニシテ法理上ハ主體ノ行爲トシテ論スヘキナリ況ヤ機關ニ委任セスシテ主體自ラ行動スル場合モ多クアルニ於テ

次ニ亦或學者ハ一般ノ場合ハ天皇カ體用ヲ具備スレトモ攝政ヲ置ク場合ハ天皇ハ唯體ノミヲ有シ用ハ攝政之ヲ有シ二者合セラ完全ノ主體タリト論ス此説ノ誤謬ナルコトニ付テハ攝政論ニ於テ之ヲ辯明スヘシ

次ニ更ニ進ミテ統治主體ノ觀念ト各箇ノ天皇トノ關係ヲ論究スヘシ蓋シ各箇ノ天皇ニハ生滅アリ然ルニ國家即チ統治ノ主體ハ永久ニ貫通スル觀念ナリ然ラハ二者ノ間ノ關係如何

或學者ハ説明シテ曰ク統治ノ主體ハ抽象的ノ觀念ナリ各箇ノ天皇ハ具體的ノ

觀念ナリ此二ノ觀念ヲ連結スルハ皇位ナリ憲法第二條ニ皇位ハ皇男子孫之ヲ繼承ストアリ此皇位トハ萬世ニ通スル抽象的ノ主體ナリ此主體ハ無形ニシテ自ラ活動スルコト態ハ有形ノ天皇ヲ須テテ活動セザルベカラス是ニ於テ又抽象的皇位ト具體的天皇ト至ク合體シ唯一不二ノモノト爲リ隨テ天皇即チ統治ノ主體タリト看ルヲ得ヘキナリト

此議論ハ所謂問題ヲ以テ問題ヲ解セントスルノ誤謬ヲ含ム何トナレハ抽象的主體ト具體的天皇トノ二觀念ヲ如何ニ連結センカヲ問題トシ之ヲ説明スルカ爲メニ皇位ヲ援用シ來リシニ拘ハラヌ皇位ヲ以テ同シク抽象的ノ主體ナリトスルカ故ニ畢竟問題ノ説明トハ爲ラヌシテ却テ同一問題ヲ繰返スコトト爲レハナリ且皇位トハ嚴格ニ解スレハ文字ノ示ス如ク一ノ虛位ニシテ統治ノ主體タル地位是ナリ此地位ヲ以テ直チニ主體其レ自身トシテ説明スルハ穩當ナラストノ議アリ

予ノ考フル所ニ據レハ統治ノ主體ト各箇ノ天皇トノ關係ヲ説明スルハ左程困難ニ非ス畢竟各箇ノ天皇ハ永久の統治ノ主體ヲ組立ツル一節ナリ統治主體ト

ハ各天皇ニ共通ナル統治權總攬者タル狀態ヲ通シテ學理上ノ觀念トシテ斯ク稱スルニ外ラス永久ニ通シテ云フト一節一節タケテ觀テ稱スルトノ別アルノミ歸スル所同一ナリ

憲法第三條ニ依レハ「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラストス」一般學者ハ之ヲ以テ天皇ノ特權ト看做シ例ヘハ天皇ノ財產權宮廷權及ヒ榮譽權等ト併セテ之ヲ説明スレトモ此見解ハ不可ナリ神聖不可侵ト云フハ統治主體ノ性質ノ一面ニ外ナラス詳ニ言ヘハ統治主體ハ一面ニ於テ積極的ニ一國ヲ圓滿ニ統ヘ治ムルノ力ヲ有スルト共ニ一面ニ於テハ消極的ニ他ヨリ侵害ヲ受クルコトナキノ力ヲ有ス右ハ統治主體ニ當然備フル性質ナルカ故ニ之ヲ以テ一ノ特權トシテ他ノ權利ト共ニ列舉スルヘ不可ナリト考フ

神聖不可侵ニ關スル學說種種アリ今參考ノ爲メニ之ヲ舉ケン外國ニ於テハ神聖不可侵ヲ無責任ト云フノ意義ト爲シ其理由ヲ説明ス

先ツ英國ノ學說ニ依レハ或者ハ君主ハ當然無責任ニ非ハ然レトモ國家最高ノ機關ナルカ故ニ其責任ヲ問ハントセム畢竟自ラ自己ノ責任ヲ問フコト爲リ

以上述へ來レル外國學者ノ說ハ皆君主ヲ機關ナリトスルヨリ來レルモノナリ
 抑モ機關ハ主體ニ由リ權限ヲ付セラルヘテ主體ノ爲メニ行動スルモノナラ故ニ
 主體ニ對シテ其權限ヲ盡スノ義務ヲ有シ隨テ其行爲ニ付テハ責任ヲ負擔スル
 ハ當然ノ理ナリ故ニ外國ノ觀念ニ據リ君主ヲ機關ナリトモハ其性質ヨリ當然
 無責任ナリト謂フコト能ハス隨テ右述ヘタル種種ノ理由ヲ設ケテ説明スルオ
 リ外國ニ於テハ或ハ其必要アルヘキモ我國法トシテハ天皇ヲ機關ト視テ
 故ニ主體ニ對シテ責任ヲ生スルト云フ理由ナシ但特ニ天皇カ國法ヲ以テ或種
 類ノ行爲ニ付キ自ラ其責ヲ負フコトヲ規定スルトキハ責任ヲ有スト認ムルコ
 トヲ得ヘキモ然ラサル以上ハ機關ノ如ク當然責任ヲ有スルモノニ非ズルナリ
 既ニ述ヘタル如ク外國學者ハ神聖不可侵ヲ無責任ト同シ意義ニ解シ我國學者
 モ一般ニ此ノ如ク論スレトモ此觀念ハ不可ナリ蓋シテハ天皇ノ責任ハ
 (一) 無責任ナル語ハ詳シク言ヘハ普通ノ者ニ在リテハ責任ヲ生スヘキ場合ニ
 天皇ニ在リテハ責任ナキヲ謂フ然ルニ神聖侵スヘカラストハ必スシモ此ノ如
 キ場合ニ限ラス絶テノ場合ニ於テ他ヨリ侵害ヲ受ケサルコトヲ謂フニ神聖ノ

(二) 前述ノ如ク天皇カ特ニ國法上ノ責任ヲ負擔スルコトヲ認ムル場合ハ之ヲ
 無責任ト謂フコト能ハス然レトモ神聖不可侵ノ性質ハ依然トシテ變セス何ト
 ナレハ自ラ認ムル責任ナルカ故ニ他ヨリ侵害ヲ受クルニ非ズレハナリ畢竟神
 聖不可侵ト無責任トハ常ニ相伴フモノニ非ス二者ヲ同一トシテ説明スルハ穩
 當ナラスト知ルヘシ

前ニ述ヘタル如ク普通ノ學者ハ神聖不可侵ヲ特權トシテ説明シ之ト共ニ天皇
 ノ財産權、榮譽權、宮廷權等ヲ説明ス財産權トハ憲法上ノ皇室費及ヒ皇室典範ニ
 規定スル財産等ニ對スル權ヲ謂ヒ榮譽權トハ天皇ノ稱號陛下ノ敬稱其他三種
 ノ神器等ヲ受クルノ權ヲ謂ヒ宮廷權トハ特種ノ宮室及ヒ侍臣ヲ有スル權ヲ謂
 フ予ハ此等ヲ此處ニ於テ説明セス何トナレハ先ツ財産權トハ統治ノ主體トシ
 テノ天皇ニ專屬スル權利ト看ルヘカラス次ニ榮譽權及ヒ宮廷權ニ關シテモ先
 ツ天皇ノ稱號敬稱ノ如キハ寧ロ法律上ノ權利義務ノ關係トシテ説明スルハ穩
 當ナラス且宮廷侍臣ヲ有スルハ天皇カ統治ノ主體タル資格ニ專屬スル權利ト
 謂フヘカラス故ニ特ニ此處ニ之ヲ舉ケス最後ニ附言スヘキハ天皇ノ私法上ノ

地位ニ關ス此場合ハ憲法論ノ範圍外ト看ルヘキモノナレトモ今日ノ學說ニ於テ天皇ニハ絕對ニ私法上ノ行為ヲシト論スル者アルヲ以テ此點ニ就テ一言スルノ必要アリ此種ノ學者ハ天皇ハ常ニ國權ノ主體タリ故ニ其行為ハ常ニ國權ノ行使ニシテ一人ト對等ノ關係ニ立ツコトナシ例ヘハ一人ト賣買ヲ爲スモ私人間ノ場合ト異ナリテ國權ノ一行使ト看サルヘカラスト論スルナリ然レトモ天皇ノ行為ニモ統治權行使ノ場合ト然ラサル場合トアルハ明カニシテ前者ハ公法關係ニ屬シ後者ハ私法關係ニ屬ス論者ハ天皇ノ私法上ノ作用ヲ認ムルハ天皇ノ性質ト相容レサル如クニ考フレトモ法ハ皆天皇ノ意思ナリ天皇カ之ニ由リ私法上ノ行動ヲ爲スハ毫モ其性質ト支障ヲ爲スヘキ道理ナキナリ

第二章 皇位繼承

憲法第二條ニ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承スルト規定ス故ニ皇位繼承ニ關シテハ皇室典範ノ規定ヲ說述セザルヲ得ス

セラルルヲ謂フ前ニ述ヘタル如ク外國ニ於テハ近頃マテ皇室典範ヲ以テ皇室一家ノ私法トシ皇位繼承ヲ以テ私法上ノ相続ト同一視シ財產權ノ授受ト同一性質ト看做シタリキ我國ニ於テハ私法上ノ相続ト雖モ一概ニ財產權ノ授受ト看做サス例ヘハ戸主權ノ相続ノ如キハ普通財產權ノ授受トハ大ニ異ナレリ況ヤ皇位ノ繼承ハ前君主カ後君主ニ其權利ヲ讓渡スニ非ス前君主ノ崩御ト共ニ皇嗣カ國法上ノ順位ニ從ヒ當然統治ノ主體タルモノナルニ於テラヤ

(一) 現在ノ皇統ハ日本帝國ト相終始シ此皇統ニシテ絶滅センカ日本國家モ亦絶滅スルコト

(二) 各箇ノ天皇ハ崩御ニ由ルノ外皇位ヲ離レ給ハサルコト

(三) 天皇崩御セハ皇嗣ハ當然直チニ皇位ヲ繼承シ給フコト

此等ハ詳細ナル説明ヲ要セスト雖モ之ヲ古來ノ沿革ニ徵スルニ第一ノ原則ハ日本建國以來替ルコトナキモノナリ彼ノ太祖ノ勅ニ「瑞穗國是吾子孫可王之地」トアリテ我國體ノ基礎一定シ爾來變動ヲ受クルコトナシ次ニ第二ノ原則ハ第

一ト異ナリ古來引續キテ行レタリト謂フヘカラス何トナレハ往時ニ在リテハ
 讓位ノ制度行ハレ天皇ノ崩御前ニ位ヲ退キ給ヒシコトナキニ非ズ然レトモ今
 日ノ國法トシテハ崩御ノ外皇位ヲ去リ給フコトナシ第三ノ原則ニ關シテ或ハ
 疑フ者アリ天皇崩御セラレハ皇嗣ハ直チニ位ニ登リ給フニ非ズ一定ノ即位
 式ヲ行ヒ神器ヲ受ケテ後位ニ即カルルナリ即位ノ式ハ以テ皇嗣ノ即位ヲ公認
 シ神器ハ以テ統治主體ノ在ル所ヲ示スモノナルカ故ニ此等ノ形式ハ國法上即
 位ノ要件ト看サルヘカラスト然レトモ此論ハ本末ヲ誤レリ勿論即位式モ行ハ
 サルヘカラス神器モ亦之ヲ受ケルヲ必要トスト雖モ此等ノ形式ヲ以テ即位其
 レ自ラノ要件ト看ルハ不可ナリ蓋シ皇嗣ハ前天皇崩御ト共ニ當然繼承シテ統
 治ノ主體ヲ構成セラルヘカラス古來ノ格言ニ皇位ハ一日モ空シウスヘカラス
 ト云フコトハ國法上ノ觀察トシテモ亦然リ
 次ニ進ミテ皇位繼承ニ必要ナル資格ヲ述ヘント欲ス其資格ハ我國法上大凡左
 ノ如シ
 第一 祖宗ノ皇統タルコト 即チ天照皇太神ヲ始祖トシ開闢以來日本國ヲ治

メ給フ正統ノ後裔タルコトヲ要ス外國ニ於テハ廣ク養子ノ制ヲ認ムル例アリ
 我國ニ於テモ古來皇養子ノ制ナキニ非ザリシモ之カ爲メニ皇統ヲ紊亂セシコ
 トナク而シテ將來ニ於テハ典範ノ規定ニ依リ養子ヲ禁スルコトトス(皇室典範
 第四二條)
 第二 男系ニ出ヅルコト 即チ皇男子ノ系統ヲ逐ヒテ進ムコトヲ必要トス皇
 女子ノ場合ハ皇族ニ嫁セラレハ其所出ノ男子ハ男系ヲ逐ヒテ其順位ニ至リ
 テ始メテ繼承ス又稀ニ臣籍ニ降嫁セラレハ皇族ヲ脱スルカ故ニ論ナシ外國
 ニ於テハ女系ノ所出モ亦繼承ノ資格アリトスル例アリ例ヘハ埃國ノ如シ
 第三 男子タルコト 即チ男系ニシテ且男子タルヲ必要トス我國古來ノ例ヲ
 推スニ女子ニシテ帝位ヲ踐マセラレシハ推古天皇ヲ首メ大凡八帝アリ然レト
 モ是レ實ニ變例ニシテ已ムヲ得サル事情ニ出ツ今日ニ在リテハ明カニ女子ニ
 繼承ノ資格ナキヲ認ム外國ニ於テハ此原則ノ行ハレサルモノ少カラズ現ニ英
 國ノ如キハ女子ニシテ男子ヨリモ前君主ニ近キ系統ニ在ル者ハ之ニ先ツン例
 アリ

以上ハ大體ノ原則ナリ今少シク外國ノ制度ヲ援用シ之ヲ比較シテ皇室典範ノ規定ヲ説明センニ外國ニ於テハ右ノ外向ホ左ノ如キ資格ヲ要スルアリ(一)歐洲諸國ニ於テハ多ク嫡出タルコトヲ要ス然レトモ我國法ハ之ヲ要件トセス皇庶子孫モ亦繼承スルヲ得(二)王室ノ家法ニ依リ認メラレタル結婚ニ因ル出生タルヲ要ス例ヘハ普國ノ如シ我皇室典範第四十條ハ「皇族ノ結婚ハ勅許ニ由ル」ヘキモノト爲ス故ニ勅許ナキ場合ノ出生ハ庶子タリ而シテ庶出モ繼承ノ資格アルカ故ニ此點モ我國法上ノ要件ニ非ス(三)對等ノ結婚ニ因リテ出生スルコトヲ要件トス例ヘハ獨逸ノ如シ我典範ハ皇族ノ結婚ハ同族又ハ勅旨ニ依リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ルト定ム故ニ之ニ依ラサル場合ノ出生ハ總テ庶子タリ而シテ同シク繼承ニ妨ナキカ故ニ此點モ亦我國法上ノ要件ニ非ス(四)國教ノ信者タルヲ要ス例ヘハ英國ノ如シ我國法上ハ信教ニ關スル規定ナシ隨テ勿論繼承ノ要件ト看ルヘカラス(五)無能力ニ非ナルコトヲ要ス我典範ニ依レハ其第九條ニ皇嗣精神若クハ身體ニ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ天皇ハ皇族會議及ヒ樞密顧問ニ諮詢シ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得ト定ム之ニ依レハ

無能力ニ非サルヲ以テ一要件トスルニ似タリ然レトモ細ニ論スレハ之ヲ以テ必然ノ要件ト稱スルコト能ハス何トナレハ皇嗣ニ此等ノ故障アリト雖モ天皇ニシテ變更ノ意思アラセラレサル以上ハ決シテ動スヘカラスルモノタリ且前天皇カ皇嗣ヲ變更セスシテ崩御セラルトキハ縱令此等ノ故障アリト雖モ當然位ニ即カセラルヘキモノタリトス尙ホ終ニ一言スヘキハ典範第九條ニ「皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ云云」トアルカ故ニ皇嗣ノ順序變更ノ場合ニハ兎ニ角一應諮詢ヲ必要トスルヤ明カナリ然レトモ此等ノ決議ハ天皇ヲ拘束スルモノニ非ス即チ單ニ意見ヲ聞クニ止マルモノト解スヘシ(一)皇位繼承ノ順序ニ關シテ以上ハ皇位繼承ノ資格ニ關スル大體ノ説明ナリ次ニ繼承ノ順序ヲ説述スヘシ「繼承ノ順序ニ關スル主義ヲ學者ハ大別シテ三種トス(一)近親主義即チ前代ノ君主ト血縁最モ近キ者ヨリ繼承スル主義是ナリ但同等ノ場合ニハ年長者ヲ先ニスルモノトス(二)年長主義即チ年齡ノ長スル者カ先チ繼承スルノ主義ナリ(三)直系主義即チ直系ニ從ヒテ下ルノ主義ナリ今日各國ノ制度ハ多ク此三者ヲ混用ス我國法モ亦原則トシテハ直系主義ニ依リ嫡庶ノ關係ヲ其間ニ加ヘ更ニ他ノ

二主義ヲモ加除スルモノトス其順序ハ先ツ皇長子ニ始マリ其直系ヲ追ヒテ皇長孫以下ニ下ル此子孫皆在ラサルトキニ至リ始メテ皇次子及ヒ其子孫ニ及ホス以下之ニ準シテ進ムコトトス而シテ大體ノ原則トシテ皇子孫ノ繼承ハ嫡出ヲ先ニシ嫡子孫皆在ラサルニ至リテ庶子孫ニ及ブモノトス

右皇子孫皆在ラサルニ至リテ近親主義ニ依リ先ツ皇兄弟ニ及ホシ更ニ直系ヲ追ヒテ其子孫ニ下ル皇兄弟及ヒ其子孫皆在ラサルトキハ更ニ次ノ近親タル皇伯叔父及ヒ其子孫ニ傳ヘ向ホ直系ヲ追ヒテ其子孫ニ下ル此等モ亦在ラサルトキハ更ニ其上ニ遡リテ近親ノ皇族ニ傳フ右皇兄弟以上ニ於テモ同等内ニ於テハ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス而シテ向ホ年長主義ニ依リ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニスルハ無論ナリトス

右ノ順序ハ全ク變更ヲ受ケサルコト能ハス即チ前ニ述ヘタル如ク典範第九條ニ皇嗣精神上若クハ身體上不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルカ爲メニ天皇カ法定ノ手續ヲ踐ミテ順序ノ變更ヲ行フ場合はナリ其他ノ場合ハ變更セラルルコトナシ

爲ルカ如キ理由ナシ然ルニ若シ無能力者ノ行爲カ一般ノ場合ニ於テ取消シ得ルニ拘ハラズ詐術ヲ用ヒタル場合ニ於テハ之ヲ取消スコトヲ得ストスルトキハ其規定ハ一種ノ刑罰的ノ規定ト謂ハサルヲ得然レモ無能力者カ詐術ヲ用ヒテ相手方ニ損害ヲ被ラシムル場合ニハ相手方ニ不法行爲ノ原則ニ依リ其損害ヲ賠償セシムルコトヲ得ルモノナリ(第七二條第七三條第七四條)故ニ特ニ法律行爲ノ取消ヲ許可セストノ規定ヲ設クルニ必要ナシト又他ノ論者ハ曰ク無能力者カ詐術ヲ用ヒタル場合ニ於テハ前論者ノ言ラカ如ク不法行爲ノ原則ニ依リ相手方カ損害賠償ヲ請求ヲ爲シ得ルハ疑ナシ然レトモ元來損害賠償トハ其損害ヲ金錢ニ見積リ賠償スルモノナルヲ以テ常ニ被害者ヲ満足ヲ來スハ困難ナルノミナラズ其損害ノ行爲ヲ取消スニ因リテ生ズルモノナレバ初ヨリ其取消ヲ許可セザルヲ以テ適當カ下ニ元來無能力者ハ一般ニ之ヲ保護スルノ必要アルハ勿論ナレトモ詐術ヲ用ヒタル場合ニ於テモ向ホ相手方ノ損害ヲ贖スルニシテ之ヲ保護スルノ必要ナシト右ニ説ハ共ニ一理アリト謂フニシ若シ無能力者以テ行爲ヲ效力ヲ定ムルニ付キ意思主義ニ依リ立法例ヲ採用スルハ前説極

メテ適當ナリト雖モ之ニ反シテ其行爲ノ效力ヲ定ムルニ付キ單ニ意思主義ノ
 ミニ依ラスシテ專ラ無能力者ノ利益ノ上ヨリ其效力ヲ定ムル立法主義ニ在リ
 テハ寧ロ後説ノ方適當ナラン嘗テ述ヘタルカ如キ予ノ考フル所ニ依レハ我民
 法ニ於テハ無能力者ノ法律行爲ヲ取消シ得トスルハ單純ナル意思主義ニ依ル
 ニ非スシテ專ラ無能力者保護ノ上ヨリ觀察シテ之ヲ取消シ得ヘキモノトシテ
 ルナリ隨テ若シ無能力者カ自ラ詐術ヲ用アルコトアラハ縱令無能力者ナリト
 雖モ之ヲ保護シテ相手方ノ利益ヲ不當ニ害スルノ必要ナシ故ニ我民法ニ於テ
 ハ右ノ後説ヲ採用シ無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムルカ爲メ詐術ヲ用
 ヒタルトキハ其行爲ヲ取消シ得サル旨ノ規定ヲ設ケタリ(第二〇條) 然レモ
 終ニ一言センニ予カ本項ニ於テ取消權ノ除外トシテ掲ケタルハ固ヨリ取消權
 除外ノ全部ニ非ス唯相手方ノ利益ノ爲メニ之ヲ除外スル場合ノミヲ述ヘタル
 ニ過キス一般ノ取消權除外ノ場合ヲ舉ケレハ此他取消權ノ時效拋棄又ハ其他
 種種ノ場合アルコトヲ注意スルニ當リテハ其ノ旨ヲ察スルニ當リテハ其ノ旨ヲ察スル
 應キル也

第五款 住所

(一) 住所ノ規定ニ關スル立法例 各國ノ法律ニ於テハ住所ノ規定ニ關スルニ
 各人ノ住所ヲ定ムルハ法律上種種ナル點ニ於テ必要アリ而シテ種種ノ法律中
 殊ニ民法民事訴訟法ニ於テ最モ其必要アリ故ニ或國ニ於テハ住所ヲ民法ニ規
 定セシメテ民事訴訟法ニ規定スルモノアリ普爾西國法索暹民法奧太利民法等
 ノ如シ然レトモ又之ト反對ニ住所ヲ民法中ニ規定スルモノ少カラズ佛蘭西民
 法伊太利民法和蘭民法獨逸民法等ノ如シ我國ニ於テ住所ニ關シ訴訟ニ特別ナ
 ル事項ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定スト雖モ住所ニ關スル一般ノ規定ハ之ヲ
 民法中ニ規定セリ

(二) 住所ノ觀念 住所ノ觀念ハ法律上各人カ平生居住スト認メラル場所ヲ謂フ民法ニ於テ各人ノ
 住所トハ法律上各人カ平生居住スト認メラル場所ヲ謂フ民法ニ於テ各人ノ
 生活ノ本據ヲ以テ其住所トスト規定セルハ之ト同義ナリ(第二一條)然ラハ各人
 カ平生居住スト認メラル場所若クハ其生活ノ本據トハ果シテ如何ナル場所

ヲ謂フカ或場合ニ於テハ法律カ特ニ規定ヲ設ケテ或人ノ生活ヲ本據トシ某所ナ
 リト定ムル場合アリ例ヘハ佛蘭西民法又ハ獨逸民法等ニ於テ妻ノ住所ハ夫ノ
 住所ニ在リ未成年ノ子ノ住所ハ其父母又ハ母ノ住所ニ在リト云ヘルカ如ク又
 我民事訴訟法ニ於テ軍人軍屬ノ住所ハ兵營地若クハ軍艦定醫所ニ在リト爲ス
 カ如シ民事訴訟法第一一條此ノ如ク人ノ住所カ法律ノ規定ニ依リテ定マル場
 合ヲ稱シテ法定住所ト謂フ而シテ此法定住所ノ外ハ各人ノ生活ノ本據地ヲ定
 ムルハ常ニ事實問題ナリ即チ各場合ニ依リ其狀況ニ從ヒテ判斷セラルヘカ
 ス或場所カ或人ノ生活ノ本據ト爲ルニハ必ス先ツ其人カ其場所ヲ生活ノ本據
 ト爲スノ意思アルコトヲ必要トス此意思アラブレバ或場所カ或人ノ生活ノ本
 據ト爲ルコト能ハス然レトモ單ニ其意思ノミニテハ未タ以テ十分ト謂フコト
 能ハス必ス之ニ相當スル所ノ所作アラサルヘカラス其意思ニ相當スル所作ト
 ハ概括的ニ之ヲ言フコト能ハサルモ例ヘハ常ニ其場所ニ滞在シ家族ヲモ其處
 ニ同居セシメ其處ニ主要ナル職業ヲ營ムト云フカ如キハ其一例ナリ此ノ如ク
 意思及ヒ之ニ相當スル所作ト相待チテ始メテ或場所カ人ノ生活ノ本據ト爲ル

コトヲ得故ニ各人カ平生居住スト認メラルヘキ場所若クハ其生活ノ本據トハ
 各人カ生活ノ本據ト爲ス意思ヲ以テ其意思ニ伴フ所ノ所作ヲ爲シタル場所ヲ
 謂フモノナリト解スルコトヲ得而シテ此各人ノ意思ニ依リテ其住所カ定マル
 場合ヲ前ノ法定住所ニ對シテ或ハ任意住所ト謂フ也今其前ノ法定住所ハ
 各人ノ住所ハ一箇ニ限ルモノナルヤ或ハ二箇以上多數設定スルコトヲ得ルモ
 ノナルヤ否ヤ此問題ニ對シテハ學說立法例ニ於テ二主義アリ其一ハ住所ハ其
 規定上必ス一箇ニ限ルトノ主義ニシテ佛蘭伊英等ニ行ハル他ノ國ハ住所ハ二
 箇以上多數設定シ得ル主義ニシテ獨逸諸國ニ行ハル我民法ハ右二主義中孰レ
 ヲ採用セルカ明文上明カナラサルモ數箇ノ住所アル場合ヲ規定セザル所ヨリ
 之ヲ推測スレバ住所ハ必ス一箇ニ限ルトヲ第一主義ヲ採用セリト謂フコトヲ
 得然レトモ予ハ住所カ數箇ノ場合ニ存在スルコトハ實際上極メテ稀ナルヘキ
 モ住所ノ觀念上ヨリ之ヲ觀レバ必スシモ一箇ニ限ルヘキモノニ非スト信ス
 右ニ述ヘタル數住所ト全ク反對ニ所謂無住所ナル場合アリヤ否ヤ即チ前ニ
 述ヘタルカ如ク各人カ住所ヲ設定スルニハ或場所ヲ生活ノ本據ト爲ス意思及

ヒ之ニ伴フ所ノ所作ノ二要素ヲ必要トス故ニ例レハ一居住所ヲ設定スルモ後
 ニ此二要素ヲ失フ場合ニ至レハ住所ノ消滅ニ至ルヘキニ當然ナル如シ如何
 此問題ニ付テモ亦二主義アリ其一ハ人ニ住所ナキモノナシトシテ主義ニシテ此
 主義ニ據レハ人ノ管テ有シタル住所カ事實上消滅スルニ至リテ新テ住所ヲ設
 定スルマテハ法律ノ假定ニ由リテ尙ホ其舊住所ヲ存在スルモノト看做ス主義
 ナリ佛蘭西英吉利等ニ行ハル他ノ一ハ人ニハ住所ナキ場合アリトシテ主義ニシ
 テ第一ノ主義ノ如ク特ニ法律上ノ假定ヲ設ケタル主義ニシテ獨逸諸國ニ行ハ
 ル我民法ハ此二主義中孰レヲ採用セルカ予ノ信スル所ニ據レハ第二ノ所謂無
 住所ノ主義ヲ採用セルモノナリ(第二二條民事訴訟法第一三條其一ハ)但シ
 (三)住所ノ效果ニ類シキモノアリテ其ノ二種ハ一ハ住所ノ存在ニ依リテ
 法律上各人ノ住所ヲ定ムルハ種種ナル點ニ於テ必要アリ今其重ナルモノヲ舉
 グレハ左ノ如シ(一)債權ノ行使ニ於テ債務者ノ住所ヲ以テ債權者ノ住所ナリ(第四八四條商法第
 二七八條) (二)債權ノ行使ニ於テ債權者ノ住所ヲ以テ債務者ノ住所ナリ(第四八四條商法第

(ロ)裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マレ場合アリ(民事訴訟法第一〇條
 人事訴訟手續法第一條第二六條第三九條第四〇條第六七條非訟事件手續法第
 二條第三四條第三八條第九〇條乃至第九二條商法第九七九條) (三)裁判所ノ
 (ハ)國際私法上住所ハ適用ルべき法律ノ標準ト爲ルコトアリ(法例第四條第九
 條第一二條第二七條第二八條) (四)住所ノ種類ニ依リテ其ノ法律上ノ地位ニ
 (一)手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付テ爲スべき行為ハ利害關係人ノ住所ニ
 於テ爲ス場合アリ(商法第四四二條第四九〇條) (二)住所ノ種類ニ依リテ其
 右ニ事クタル外向ノ住所カ法律上ノ效果ヲ生スル場合ハ極メテ多シ然レトモ
 其詳細ナル事項ハ各科ノ講義ニ於テ研究セラレシコトヲ希望スルニ付(三)住所
 (四)住所ノ種類ニ依リテ其ノ法律上ノ地位ニ異ナリ(一)住所ノ種類ニ依リテ
 居所トハ各人カ永ク繼續シテ居住スト認メラレル場所ヲ謂フ然レトモ居所ハ
 固ヨリ住所ト異ナリ生活ノ本據タルコトヲ必要トセス然レトモ又民事訴訟法
 ニ所謂現在地ト同一ハモノニモ非ザルベシ(民事訴訟法第三三條) (二)各人カ
 場所ニ一時タラシト出現キ其身體ヲ置クトキハ其場所ヲ以テ現在地ト謂フ

ヲ得ルモ未タ之ヲ居所ト謂フコト能ハサルヘシ居所トハ前ニ述ヘタルカ如ク
 永ク繼續シテ居住スルコトヲ必要トス故ニ居所トハ恰モ住所ト現在地トノ中
 間ニ在ル觀念ト謂フコトヲ待ヘシハローイモ必要トス然レバ又凡テ居住
 既ニ述ヘタルカ如ク各人ノ住所ヲ定ムルハ法律上種種ノ點ニ於テ必要ナルモ
 ノナリ然レトモ各人ハ常ニ住所ヲ有スルモノニ非ス所謂一所不住ニシテ各地
 ヲ流浪スル者ニ在リテハ其住所ヲ有セザル者多シ又住所ヲ有スル場合ト雖モ
 事實上之ヲ知ルコト能ハサル場合アリ此ノ如キ場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所
 ニ代用スルキモノナリ(第二條民法)於テハ住所ノ知レサル場合ニ於テハ居
 所ヲ以テ住所ト看做スコト一見或ハ實際ニ住所存在スルモ事實上之ヲ知ルコ
 ト能ハサル場合ノミヲ謂フカ如シ又他ノ法律例ヘハ人事訴訟手續法第一條ニ
 於テ住所ナキトキト住所ノ知レサルトキトヲ區別スル用例ニ於テハ住所ノ知
 レサルトキトハ固ヨリ實際上住所存在スルニ拘ルテ單ニ之ヲ知ルコト能
 ハサル場合ノミヲ指スモノナラズ民法ノ用例ニ於テハ住所ノ知レサル場合
 ハ住所存在シテ實際上之ヲ知ルコト能ハサル場合ヲミナシテ住所ヲ知レサル場

第二條取消權行使ノ方法及ヒ其效力
 取消權ノ行使ハ原則トシテ相手方ニ對スル意思表示ヲ以テ足レリトス唯例外
 トシテ訴ノ形式ヲ要スルモノアリ而シテ其意思表示ハ一定ノ形式ヲ必要トス
 ルモノニ非ス民法第十九條第三項ニ於テハ一定ノ期間内ニ通知ヲ發セザルト
 キハ之ヲ取消シタルモノト看做ストアルヲ以テ默示ニ依ル取消權ノ行使ナリ
 ト論スル者アリト雖モ同條同項ノ規定ハ法律ノ振制ニシテ當事者ノ默示ノ意
 思表示ト看ルヘキモノニ非ス又相手方ノ確定セザル場合ニ於テハ一般ノ人若
 クハ其事件ニ關係スル第三者ニ知ラシムルニ足ルノ方法例ヘハ廣告等ニ依リ
 テ之ヲ爲ササルヘカラス(第一二三條第五三〇條參照)其性質ハ取消ニ因
 取消ハ法律行為カ存在セザリシモノト同シテ原狀回復ノ效力ヲ生ス其目的ハ
 取消ノ行為アルマテハ有效ナリシ法律行為ヲ消滅セシメ嘗テ其行為ナカリシ
 時ノ狀態ニ復セシムルニ在リ隨テ取消ハ常ニ既往ニ遡ルノ效力ヲ有スルモノ
 ニシテ若シ其效力ナキトキハ取消ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルモノトス此ノ
 如ク取消ニ因リテ舊ノ行為ハ消滅スルカ故ニ其行為ニ因リテ生シタル權利義務

務ノ關係ハ未タ發生セザリシトキノ狀態ニ復スルモノナリ但詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス又夫婦間ノ取消行為ハ之ニ因リテ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ許サス(第九六條第七九二條參照)要スルニ取消ハ原則トシテ第三者ノ權利ヲ害スルト否トヲ問ハス事實上不能ナラサル限ハ原狀ニ回復スル效力ヲ有スルモノナリ例ヘハ買主カ賣買ノ目的物ノ引渡ヲ受ケ賣主ハ代金ノ支拂ヲ受ケタル場合ニ於テハ其賣買ノ取消ニ因リテ賣主ハ買主ニ對シテ其代金ヲ返還シ買主ハ其目的物ヲ賣主ニ引渡ササルヘカラス若シ又買主ハ其目的物ヲ返還セザルヘカラスナルカ如シ(第九七條)前ノ賣主ニ對シテ其物ヲ返還セザルヘカラスナルカ如シ(第九八條)取消ニ關スル理論ハ右述ヘタル如シト雖モ此理論ヲ無制限ニ適用スルトキハ(第一)善意ニシテ且過失ナキ(第二)利益ヲ害シ隨テ取引ノ安全ヲ害スルコトアルヘク(第二)取消權ヲ與ヘ之ヲ保護セントスル無能力者ヲシテ取消ノ爲メニ却テ損害ヲ被ラシムルコトト爲リ法律カ取消權ヲ認メタルニ拘ハラヌ之カ實行ヲ困難ナラシムルト同一ノ結果ヲ生スルニ至ル此二ノ弊害アルヲ以テ法律

ハ便宜ヲ重シ即チ權利ノ目的物カ動産ナルトキハ其取得ニ付キ(第三)者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得セシムルカ故ニ(第一)九二條舊所有者ハ善意且過失ナクシテ其動産ノ占有ヲ爲シタル(第三)者ニ對シテ其物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得サル結果ト爲リ第一ノ弊害ハ之ニ依リテ自ら除去セラル又權利ノ目的物カ不動産ナルトキハ登記ニ依リテ權利ヲ移轉及ヒ讓渡人取得人ノ關係ヲ知ルコトヲ得ヘキヲ以テ第一ノ弊害ナシト謂フヘシ又第二ノ弊害ヲ補ヒ無能力者保護ノ趣旨ヲ貫徹セシムルシカ爲メニハ無能力者ハ其行為ニ因リテ受ケタル利益ノ全部ヲ返還セシムルニキ義務ヲ減シ其行為ニ因リテ現ニ利益ニ受ケタル限度ニ於テノミ償還ノ義務ヲ有スヘキモノトセリ例ヘハ無能力者カ法定代理人ノ同意ヲ得シテ成物件ヲ賣却シ其代金トシテ受領シタル金銀ヲ浪費シ現在何等ノ利益ヲ有セザルトキハ其受領シタル代金ハ毫モ返還スルコトヲ要セザルカ如シ然レトモ之ヲ以テ更ニ他ノ物件ヲ買入レ現ニ財産上ノ利益ヲ有スルトキハ之ヲ計算シ其受ケタル利益ニ相當スル償還ヲ爲ササルヘカラス然レトモ返還スルニキ金額ハ如何ナル場合ニ於

ヲモ當初受領セシ金額ヨリモ多額ナルコトヲ要セサルハ勿論ナリ
第三 取消權ノ時効

取消權ハ法律行為ヲ爲シタル時ヨリ二十年間之ヲ行使セス又其行為ニ付キ追認ヲ爲シ得ル時ヨリ之ヲ行使セサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス追認ヲ爲シ得ル時トハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者ニ在リテハ其取消ノ原因タル狀況ノ止ミタル時ヲ謂フモノニシテ例ヘハ強迫ニ因ル意思表示ナルトキハ其強迫ノ止ミタル時禁治産者ニ在リテハ其能力ヲ回復シ其行為ヲ知リタル時即チ禁治産ノ宣告ヲ取消サレタル後其行為ヲ爲シタルコトヲ知リタル時其他ノ無能力者ニ在リテハ有能力ト爲リタル時又ハ夫若クハ法定代理人ノ同意ヲ得タル時ヲ謂フモノトス(第一二四條第一二六條)

第三款 取消シ得ヘキ法律行為ノ追認

第一 追認及ヒ其效力

取消シ得ヘキ行為ニ付キ取消權ヲ有スル者ハ又之カ追認ヲ爲ス權利ヲ有ス追

認ハ取消シ得ヘキ行為ヲ完全ナラシムル意思表示ニシテ之ニ依リテ不確定ナル法律行為ノ效力ヲ確定セシムルモノナリ既ニ述ヘタル如ク取消シ得ヘキ行為ハ取消權ノ行使ニ因リテ消滅スルモノナリト雖モ其取消アルマテハ有效ナルヲ以テ追認アリタル爲メニ始メテ其行為ノ效力ヲ發生スルモノニ非ス又法律行為ハ追認アリタル時ヨリ始メテ完全ナル行為ト爲ルニ非スシテ其行為ノ時ニ遡リテ完全ナル行為ナリト看做サルモノナリ即チ此場合ニ於ケル追認ノ遡及ハ法律行為ノ效力ノ遡及ニ非スシテ法律行為夫レ自身ノ形式ノ遡及ニ外ナラス然レトモ追認アリタルニ因リテ行為ノ時ニ遡リ完全ノ行為ト看做サルカ爲メニ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス例ヘハ取消シ得ヘキ行為ヲ保證シタル第三者ハ其行為ノ追認アリタル爲メニ完全ナル行為ニ依ル債務ヲ保證シタルモノトセララルコトナキカ如シ(第一二二條)

第二 追認ヲ爲スコトヲ得ル時期

追認ハ取消シ得ヘキ法律行為ヲ完全ナラシムル意思表示ナルヲ以テ取消ノ原因タル狀況ノ繼續中ハ之ヲ爲スモ其效力ナク即チ取消ノ原因タル狀況ノ止

タル後始メテ有效ニ之ヲ追認シ得ベキ也ナリ又禁治產者以外ノ無能力者ハ
 法定代理人ノ同意ヲ得タルトキハ法律行為ヲ完全ニ爲スコトヲ得ベキ故
 法定代理人ノ同意ヲ得タルトキハ無能力中ナリト雖モ有效ニ之ヲ追認スルコ
 トヲ得ヘシ法定代理人又ハ夫ハ取消シ得ベキ法律行為ヲ追認スルニハ取消ノ
 原因タル狀況ニ關係ナキヲ以テ何時ニテモ其行為ヲ追認スルコトヲ得又禁治
 產者ハ法定代理人ノ同意ヲ得ルモ完全ニ法律行為ヲ爲スコトヲ得タルヲ以テ
 其能力ヲ回復セサル以前ニハ法定代理人ノ同意ヲ得ルモ有效ニ之ヲ追認スル
 コトヲ得ス

第三 追認ヲ爲ス方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得明示ノ追認トハ相手方ニ
 追認ハ明示又ハ默示ノ方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得明示ノ追認トハ相手方ニ
 追認スルヲ意思ヲ表示スルニ因リテ其效力ヲ生スルモノニシテ默示ノ追認ト
 ハ取消權者ノ行為ニ依リテ理論上追認ノ意思アルコトノ明白ナル場合ヲ總稱
 スルモノナリ法律ハ取消シ得ヘキ行為ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ追認ノ
 意思アルモノト看做シ追認シタルト同一ノ效果ヲ生セシム

第一 債務ノ全部又ハ一部ハ履行若クハ擔保ヲ提供スルニ依リテ履行
 第二 履行ノ請求更ハ更改若クハ強制執行等ニ依リテ全部又ハ一部ヲ讓渡シ
 第三 取消シ得ヘキ行為ニ因リテ得タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ
 第一ノ場合ハ取消權利者ハ取消シ得ヘキ行為ニ因リテ負擔セザル義務ヲ履行
 爲シ又ハ其履行ヲ確保シタルモノニシテ此事實アル以上ハ其法律行為ニ因
 生スル效果ヲ享有スルベキ意思明白ナルヲ以テ之ヲ取消スル意思ナキモノト
 認メ追認ノ效果ヲ生セシメタルモノナリ第二ノ場合ハ相手方ニ對シテ履行ヲ
 請求シ又ハ其履行ヲ強制スル爲メニ強制執行ヲ爲シ若クハ取消シ得ヘキ行為
 ニ因リテ生ズル債權債務ヲ要素ヲ變更シタル場合亦ハ以テ何レモ追認ノ
 意思アルニ非サレハ此意思表示ヲ爲スヘキモノニ非サレハナリ又第三ノ場合
 ハ取消權利者ニ於テ其法律行為ニ因リテ得タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ
 タル以上ハ其權利取得ノ權限ヲ有效ナラシムル意思アルモノト認メタルヲ得
 タレハナリ

第六節 附物及附屬

民法總論 法律行為ノ無効及取消

第六節 條件及期限

第一款 條件

第一項 條件ノ性質

條件トハ法律行為ノ效力ノ發生又ハ消滅ヲ不確定ノ事實ニ關係セシムルモノナリ
 其意思表示ニ附加スルモノヲ謂フ
 (一) 條件ハ法律行為ノ效力ノ發生又ハ消滅ヲ不確定ナラシムルモノナリ
 或法律行為ニ條件ヲ附加スルト否トハ全ク當事者ノ任意ニ決スルキ事項ナリ
 而シテ條件附法律行為ニ於テ條件ニ付セラザルモノハ其行為ノ效力ナリヤ又
 ハ其法律行為ノ要素タル意思カ條件ニ付セラザルモノナリヤ例ヘバ遺失物ヲ
 發見シタル者ニハ金百圓ヲ與フヘシト云フカ如キ場合ニ於テ條件ニ付セラザ
 ルモノハ百圓ヲ贈與セントスル意思ナリヤ若クハ百圓ヲ交付スヘキ義務ナリ
 ヤ從來多數學者ノ主張スル所ニ依レハ條件ニ付セラザルモノハ法律行為ノ意

思ニシテ條件カ成就セザルトキハ其意思ハ存在スニ隨テ條件ノ成就シタルト
 キニ始メテ法律行為ノ存在アリト云フニ在リ又或ハ條件附意思表示ヲ爲シタ
 ル當時ニ於テ其法律行為ノ目的タル物ヲ處分スルノ意思ハ其時ニ於テ未
 於テ完マサル問題ニシテ若シ條件カ成就シタルトキハ其意思表示ノ當時ニ於テ意
 思アリト謂フヘク之ニ反シテ條件カ成就セザルトキハ其意思ナシト云フニ在
 リ然レトモ吾人ノ意思ハ決定セラレタルトキニ存在スルモノニシテ一タビ決
 定セラレ表示セラレタル意思ハ將來ノ事實ノ發生セラレタルト否トニ因リテ
 變更セラルヘキモノニ非ス蓋シ條件附法律行為ハ或事實ノ發生又ハ不發生ヲ
 以テ其效力ニ關係セシムル特別ノ意思表示ニシテ條件ニ因リテ關係セラルル
 モノハ意思ノ存在ニ非スシテ意思表示ノ目的ナル法律行為ノ效力ノ發生及ヒ
 消滅ニ在リト謂ハサルヘカラス佛法系ノ法典及ヒ獨逸法系ノ法典ニ於テモ條
 件ハ法律行為ニ附加スルモノナリトノ主義ヲ採用シタルヲ以テ條件附法律行
 爲ハ其意思表示ノ當時ニ於テハ現實ニ存在シ唯其行為ノ目的タル法律上ノ效
 力ノ發生又ハ既ニ發生シタル效力ノ消滅ヲシテ不確定ノ事實ニ繫ラシムル趣

旨ナリトス條件ニ關スル我民法ノ主義モ亦同シ不確定ノ事實ニ據ルモハハ
 (二) 條件ハ不確定ノ事實ヲ以テ其内容トスルモノナリ、目前ニハ尙未決シ、或
 條件ハ法律行為ノ效力ノ發生又ハ既ニ發生シタル效力ノ消滅ヲ未決定ノ期間ニ
 在ラシムルモノナルヲ以テ條件トシテ附加シ得ル事ニシテ不確定ノ事實ヲ内
 容トスルモノナラサルヘカラス隨テ未來ノ事實ナリト雖モ其成就ノ明白ナル
 モノ例ヘハ某カ死亡セハト云フカ如キ來年モナリタラハト云フカ如キハ條件
 ニ非スシテ期限ナリ之ニ反シテ甲カ乙ヨリ前ニ死亡セハト云フカ如キハ甲及
 乙ノ死亡スヘキコトハ明白ナリト雖モ甲カ果シテ乙ヨリ前ニ死亡スヘキヤ
 否ヤハ不確定ノ事實ニ屬スルヲ以テ之ヲ條件ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ所謂
 不確定ノ事實トハ當事者間ニ於テ不確定ナルヲ以テ足レリトスルカ成ハ客觀
 的ニ不確定ノモノナラサルヘカラサルカ成ハ曰ク既ニ確定セル事實ト雖モ當
 事者カ之ヲ知ラサル間ハ條件ト爲スコトヲ得即チ現在及ヒ過去ノ事實ト雖モ
 條件ト爲スコトヲ得ヘシト蓋シ此說ノ由リテ起ル所以ハ未來ノ事實ト雖モ之
 ヲ客觀的ニ觀察スルトキハ不確定ノモノナク其運命ハ既ニ定マラサルモノニ

シテ唯當事者カ之ヲ知ラサルニ過キス既ニ既往又ハ現在ノ事實ハ其運命ハ既
 ニ發表セラレタルモノナリト雖モ當事者カ之ヲ知ラサル限ハ未來ノ事實ニ付
 テ當事者カ之ヲ知ラサルト雖モ異ナル所ナシ隨テ條件ハ未來且不確定ナル事
 實ニ限定スルノ理由ナシト云フニ在リ此說ハ極端ナル空論ヲ前提トシテ之ヲ
 人事ノ關係ヲ規定セル法律ノ上ニ應用セントスルモノニシテ殆ト嚴聲ノ價値
 ナキモノナリ何トナレハ未來ニ發生スヘキ事實ハ未タ其運命ノ決定セラレザ
 ルモノニシテ既ニ決定セラレタル運命ノ發表セラレタルモノト同一視スヘキ
 モノニ非ス現時ノ人智ノ程度ニ於テハ其成否ヲ判定スルコトヲ得ザルモノ多
 ク縱令未來ノ事實ト雖モ事前ニ其成否ヲ確知シ得ヘキモノナレトキハ條件ト
 爲スコトヲ得ザルニ拘ハラス未來ノ運命ハ決定シ又ハ判定シ得ヘキカ故ニ之
 ヲ條件ト爲スコトヲ得トセハ既往ノ事實モ亦條件ト爲スコトヲ得ヘシト期ヲ
 ニ等シケレハナリ獨逸民法ニ於テモ條件ハ未來且不確定ナル事實タルコトヲ
 要スヘキ旨ヲ規定セザルコトハ我民法ト同一ナリ然レトモ之ヲ規定セザル所
 以ノモノハ過去ノ事實ヲ條件ト爲スコトヲ得ルコトヲ認メタルモノニ非スレ

テ條件トシテ法律行為ニ附加シテ條件附法律行為ノ關係ヲ生ゼシムヘキモノ
 ハ未來且不确定ノ事實ナラサルニ依ラサルコトハ當然ニシテ特異之カ規定ヲ
 要セザルモノト認メタレバナリ我民法ノ解釋トシテハ當事者カ之ヲ知ラサル
 ノミニテハ條件ト爲スコトヲ得ザルモノト謂ハサルニカラス何レナレハ縱令
 當事者カ其事實ノ確定セルコトヲ知ラサル場合ニ於テ法律行為ヲ當時ニ於
 テ其事實カ客觀的ニ確定セルトキハ法律行為ノ效力ハ直チニ發生スルニ決シ
 シテ條件ヲ附セザルト同一ナレバナリ即チ停止條件ナルトキハ法律行為ハ無
 條件ト爲リ解除條件ナルトキハ無効ト爲ル例ニハ徳川家康カ關ヶ原戰ニ於
 テ敗北シタルトキハ汝ニ金百圓ヲ贈與スヘシト謂フカ如キハ永久ニ贈與ノ效
 力ヲ生スルコトナキカ如シ(第三三三條)即チ既往及モ現在ノ事實ヲ以テ條件ト
 爲シタルトキハ其法律行為ノ效力ヲ發生又ハ消滅ヲ不确定ノ條件ニ繫ラシメ
 タルモノニ非スシテ隨テ其附加セラレタルモノハ條件ニ非サルコトヲ知ルニ
 シ又我民法第三百三十一條第三項ニ於テ當事者カ其條件ノ成就又ハ不成就ヲ知
 ラサル間ハ第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ヲ規定ヲ適用スルニ依リテ單用

テ防禦的戰爭ヲ爲シタルニ濫觴セリ上主權國カ外國ト戰爭ヲ開始シタルトキ
 ハ一部主權國ハ亦當該外國ニ對シテ交戰國ト爲ルヘキモノナルヤノ問題ハ千
 八百五十四年ノ實例ニ於テ否定セラレタリ以後上主權國カ外國ト戰爭ヲ爲ス
 場合ニ特別ノ規定ナキ限ハ一部主權國ハ其戰爭ニ加ハルト加ハラサルトハ全
 ク自由ナリトノ原則ヲ生スルニ至レリ總テ一部主權國ト上主權國トノ關係ハ
 條約ニ依リテ定マルモノナルカ故ニ其關係ハ條約ニ依リテ決定セラル條約ヲ
 以テ定マルモノナルカ故ニ一部主權國ハ上主權國ニ對シテ一定ノ權利義務ヲ
 有シ上主權國ハ亦一部主權國ニ對シテ一定ノ權利義務ヲ有ス例(ハ)上主權國
 カ條約ニ定メタル以外ノ保護ヲ與ヘテ干渉セントスルトキハ一部主權國ハ之
 ヲ拒否スルノ權利ヲ有シ又一部主權國カ上主權國ノ承諾ヲ得ザレハ爲スコト
 能ハサル事項ニ付キ專斷ニ之ヲ行ヒタルトキハ上主權國ハ一部主權國ニ對シ
 自國ノ指定ヲ受クヘシトノ請求ヲ爲スノ權利ヲ有スルカ如シ
 永久局外中立國ハ一部主權國ナリヤ否ヤノ問題アリ永久局外中立國トハ條約
 ニ因リテ外國ニ對シテ主帥的ノ戰爭ヲ爲スコト能ハス又外國カ戰爭ヲ爲スコト

キハ必ス中立ヲ守ルヘシトノ義務ヲ負擔シタル國家ナリ永久局外中立國カ普
 通局外中立國ト異ナル點ハ(一)條約ヲ以テ定ムルコト(二)其中立カ永久ニ互ル
 ト(三)其中立カ平時ヨリ定マリタルノ三點ニ存ス
 以上述ヘタル點ヨリ觀レハ永久局外中立國ハ恰モ一部主權國ナルカ如キ觀テ
 呈スレトモ永久局外中立國ニ對シテハ上主權國ナルモノナシ詳言セハ永久局
 外中立國ニ對シテ主動的戰爭ヲ爲スヘシトノ承諾ヲ與ラレ國ナク又永久局外
 中立國ニ代リテ外國ニ對シテ戰爭ヲ爲ス國家ナシ故ニ永久局外中立國ハ純然
 タル全部主權國ニシテ一部主權國ニ非ス永久局外中立國ノ最モ主ナルモノハ
 瑞西白耳義及ヒ「ルクセンブルグ」三國トス

第八節 國家ノ承認

國家ノ承認トハ既ニ成立シタル國家ニ對シテ國家タルノ實際ヲ爲スコトヲ得
 ヘク又一切ノ國際法ノ適用ヲ受クルヲ得ヘキコトヲ認ムルヲ謂フ國家ハ國家
 タルノ要素ヲ具備スルニ因リテ成立スルモノニシテ決シテ承認セラレタルカ

爲メニ成立スルモノニ非ス既ニ成立シタル國家ナリト雖モ未タ外國ヨリ承認
 セラレサルトキハ國內ニ於テ國家トシテ統治スルコトヲ得ヘシト雖モ外國ニ
 對シテ國家タルノ實際ヲ爲スコトヲ得ス是レ新法上國家ニ承認ノ必要アル所
 以ナリ國家成立ノ原因カ自然ニ出テタルト平和ノ方法ニ出テタルト將タ強制
 ノ方法ニ出テタルトヲ問ハス又成立ノ原因カ正當ナリシヤ不當ナリシヤハ承
 認ト何等ノ關係ナシ此ノ如ク承認ニ因リテ國家ト爲ルニ非スシテ國家タルカ
 故ニ承認セラレルモノナレハ承認ノ主體カ國家タラサルヘカラサルト同シク
 承認ノ客體モ亦國家タルコトヲ要スルヤ言フ埃タス國家ニ非サルモノヲ承認
 スルモ之カ爲メニ其承認セラレタルモノカ國家ト爲ルコトナシ然レトモ此原
 則ニ一箇ノ例外アリ稱シテ反亂團體ノ承認ト謂フ反亂團體ノ承認トハ一國ノ
 一部分ニ割據シテ本國ニ對シテ叛旗ヲ翻セル團體アルトキニ其團體ノ力カ強
 盛ニシテ本國カ實際上之ヲ討平スルコト困難ナル場合ニ於テ本國又ハ外國ヨ
 リ此反亂團體ニ戰時國際法ノ適用ヲ受クルコトヲ承認スルモノヲ謂フ反亂團
 體ニシテ承認セラレタルモノハ國家ノ有スル一切ノ權利義務ヲ有スルモノニ

非スシテ唯國家カ戰爭ヲ爲スニ關シテ有スル權利義務ヲ有スルニ過キテ故ニ
 例ヘハ外國ニ公使ヲ派遣スルカ如キ又ハ外國ト條約ヲ締結スルカ如キハ之ヲ
 爲スコト能ハサルナリ國家ニ非サル交戰主體ヲ承認スルノ例外ヲ設ケタル理
 由ハ或特別ノ利益アルカ爲メナリ反亂團體カ承認セラルルニ因リテ左リ三者
 ハ各一定ノ利益ヲ受ク是レ如上ノ例外ヲ認メタル所以ナリ

第一 反亂ヲ受ケタル本國ハ反亂團體ニ屬スル者カ外國若クハ外國人ニ對シ
 テ爲シタル行為ニ付テ外國ニ對シテ責任ヲ免ルルノ利益アリ又反亂團體ニ屬
 スル者ヲ悉ク處罰シテ爲メニ國家ノ經費ヲ減シ國家ノ人材ヲ失フヲ避クルノ
 利益アリ

第二 反亂團體自體ハ承認セラルルニ因リテ第三國カ本國ニ與シテ自己ヲ攻
 撃スルコトヲ免ルルノ便宜アリ又反亂團體ニ屬スルモノカ本國軍隊ノ手ニ歸
 シタルトキニ於テ處罰ヲ免ルルノ利益アリ

第三 外國ハ反亂團體カ其本國ヲ危害センカ爲メニ故ラニ方向ヲ轉シテ外國
 又ハ外國ノ人民ニ危害ヲ加ヘ之ニ因リテ本國ヲシテ外國ニ對シテ責任ヲ負ハ

シメントスルカ故ニ反亂ノ團體ヲ承認シテ此損害ヲ免ルルノ利益アリ

國家ハ外國ヲシテ自國ヲ承認セシムルノ權利ヲ有スレトモ一國ハ外國ヲ承認
 スルノ義務ナシトハ國際法學者ノ一般ニ唱フル所ナリ然レトモ既ニ國家タル
 ノ要素ヲ具ヘ又外國ト交際スルニ關スル種種ノ機關ヲ具備スル以上ハ國家ハ
 他國ヲシテ自國ヲ承認セシムル權利ヲ有スルト同時ニ他國ハ承認スルノ義務
 ヲ有ス國家ヲ何時ヨリ承認スヘキヤニ付テハ現今ノ國際法ニ於テ之ヲ法律問
 題ト爲サスシテ却テ政治問題ニ一任セリ或國ハ早ク之ヲ承認シ又或國ハ之ヲ
 遲ク承認ス而モ遲ク承認シタル國家必スシモ承認ノ義務ニ違反シタルモノニ
 非ス國家カ平和的ニ成立スル場合ニ於テハ承認ノ問題ニ爭ヲ生スルコトナシ
 ト雖モ一國ノ一部分カ本國ヨリ獨立シタルニ付テハ承認ハ屢々爭議ヲ惹起スモ
 ノナリ例ヘハ北米合衆國カ本國タル英國ヨリ獨立シテ一箇ノ國家ヲ爲シタル
 ニ當リ佛國カ諸外國ニ先チ千七百七十八年ニ既ニ之ヲ承認シタルヲ以テ英國
 ハ佛國ニ對シテ外交關係ヲ絶タントシタルコトアリ又千六百四十年ニ葡萄牙
 カ西班牙ヨリ分離シタルニ當リ諸外國皆之ヲ承認シタレトモ西班牙ノミハ千

六百六十八年ニ至ルマテ之ヲ承認セザリシカ如キ又白耳義カ千八百三十年ニ和蘭ヨリ分離シタルニ和蘭ノミハ千八百三十九年ニ至ルマテ之ヲ承認セザリシカ如シ

承認ノ方法ハ之ヲ分チテ二トス一ハ明示ノ承認他ハ默示ノ承認是ナリ明示ノ承認トハ文字ノ示スカ如ク一ノ國家カ他ノ國家ヲ承認スルノ意思ヲ外部ニ對シテ表彰シタルヲ謂ヒ斯ル承認ヲ爲ス場合ニ於テモ單ニ一國ノミ承認スルコトアリ又ハ數國カ合シテ之ヲ承認スルコトアリ默示ノ承認トハ承認ヲ爲スノ意思ヲ明示セザルモ國家ナリト承認スルニ非サレハ爲スコトヲ得サル行爲ヲ外國ニ對シテ爲スモノヲ謂フ例ヘハ外國ニ對シテ公使ヲ派遣シタルカ如キ又ハ或外國ヲ列國會議ニ加ヘタルカ如シ

承認ノ種類ニ關シテハ前述シタルカ如ク交戰主體タル承認ト國家タル承認トノ二種アリ國家タルノ承認ヲ分チテ更ニ單ニ自國ノミカ其國家ト交際ヲ爲ストノ承認ト國際法團體ニ加入セシムル承認トノ二種アリ前者ハ承認國ト被承認國トノ間ニ效果ヲ生スルニ止マレトモ後者ハ承認セラレタル國家ニ對シ國

際法ノ主體タル效果ヲ及ホサシムルモノナリ承認ノ種類ニモ無條件ノ承認ト條件付承認トノ二種アリ

條件付承認トハ其國家カ或條件ヲ具備スル限度ニ於テ外國ヨリ之ヲ國家ナリト承認スルモノヲ謂フ例ヘハ千八百七十八年ノ柏林條約ニ於テ「バルカン」半島ノ諸國「ルトマニヤ」「セルビヤ」「モンテネグロ」等ニ信教ノ自由ヲ人民ニ與フルコトヲ條件トシテ國家タルコトヲ承認シタルカ如シ此等ノ國家カ一度條件ヲ充タシタルモ後ニ至リ其條件ヲ欠缺スルトキハ當然之ヲ國家ト承認セズシテ可ナルヤノ問題ニ付テハ種種ノ學說アリト雖モ承認ヲ爲シタル國家カ承認ヲ取消ササル限ハ依然其效力アリト解スルヲ穩當トス

第九節 國家ノ權利

國家ノ權利ニ關シテハ殆ト總テノ國際法學者ハ之ヲ分チテ國家ノ根本的權利及ヒ關係的權利ノ二トセリ

根本的權利トハ國家カ國家トシテ當然有スル權利ヲ謂ヒ即チ國家ノ生存權

立權維持權、正當防衛權等ノ如キ是ナリ關係の權利トハ國家カ外國ト交際ヲ爲スニ因リテ生スル權利ヲ指稱ス例ヘハ公使授受權、罪人引渡權條約締結權、通商貿易權等ノ如キ是ナリ然レトモ國家ノ國際法上ノ權利ナルモノハ悉ク外國ト交際ヲ爲スニ因リテ生スルモノナレハ國際法ヨリ觀察シタル權利ノ作用ハ悉ク之ヲ關係の權利ナリト謂ハサルヘカラス例ヘハ國家ノ獨立權ノ如キモ外國ニ對シテ獨立スルヲ關係の權利ニシテ國家ノ自衛權ト云フカ如キモ外國ニ對シテ國家カ自國ヲ衛ル權利ナルカ故ニ亦均シク關係の權利ナリト謂ハサルヘカラス要スルニ此二種ノ區別中第一種ニ屬スヘキモノハ寧ロ國內法ヨリ觀察スヘキモノニシテ若シ之ヲ國際法上ヨリ觀察スルトキハ均シク關係の權利ナリト謂ハサルヘカラス夫レ故ニ予ハ國家ノ權利ヲ分テテ實質的權利及ヒ形式的權利ノ二種ニ分ツノ勝レルヲ信ス國家ノ實質的權利トハ國家ノ生存維持ニ必要ナル權利ニシテ形式的權利トハ國家ヲ外部ニ對シテ表彰スル議式上ノ權利ナリ

國代表者カ「ジエネヴ」ア府ニ會合シテ赤十字條約ノ追加條款ヲ調印シタレドモ此條約ハ諸國ノ批准ニ至ラズシテ止ミタリ然レトモ普佛戰爭ノ際兩國ハ假ニ之ヲ適用シ其後諸國モ之ニ遵據シ千八百九十九年七月二十九日萬國平和會議ニ於テハ同條約ノ趣旨ニ基キ千八百六十四年八月二十二日ジエネヴア條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スルノ條約ヲ締結シ軍用病院船及ヒ交戰國又ハ中立國ノ商人若シハ公認セラレタル救恤協會ノ費用ヲ以テ縫裝シタル病院船並ニ病者、傷者及ヒ難船者ヲ救護スル中立國ノ私有船舶ヲ不可侵ト爲セリ

第二款 病者、傷者及ヒ死亡者ノ待遇

病者、傷者ヲ完全ニ保護セントセハ其居所ニ對シテ敵意ノ行爲ヲ加ヘサルノ必要アルカ故ニ赤十字條約第一條ニ戰地假病院及ヒ陸軍病院ヲ不可侵トシ其病院ニ患者ノ入院スル間ハ交戰者雙方ニ於テ之ヲ保護スヘキコトトセリ蓋シ同病院ハ各交戰國政府ニ所屬スルモノナレドモ其本務トスル所ハ敵國人ト自國人トヲ論セス病傷者ヲ等シク救護シ其救護ニ付テハ互ニ敵味方ノ區別ヲ爲サ

ナルモノナルカ故ニ交戦者雙方ニ依リ保護ヲ受タル所以ナリ然レトモ第一條ノ末文ニ於テ戰地假病院及ヒ陸軍病院ハ兵力ヲ以テ之ヲ守ルトキハ其中立者ルコトヲ失フヘシト規定シ交戦國カ軍隊ヲ以テ其病院ヲ警護スルトキハ其兵力ノ下ニ在ルカ故ニ中立ニ伴フ不可侵ノ利益ヲ享有スルコト能ハサルモノトス又茲ニ所謂戰地假病院ノ意義ハ最モ廣義ニ適用スヘク追加條款第三條ニ於テハ戰地假病院ノ名稱ハ陣中病院其他病傷者ヲ收容スル爲メ戰場ニ於テ軍隊ニ附隨スル臨時ノ場所ヲモ包含スト規定シ平和會議ノ條約ニテハ戰地假病院ナル同一文字 Ambulance ヲ糊帶所ト譯セリ

赤十字條約第二條ニ戰地假病院及ヒ陸軍病院ニ於テ任用スル人員即チ監督員警員事務員負傷者ノ運搬員茲ニ說法者ハ各其本務ニ從事シ且負傷者ノ入院スヘク若クハ救助スヘキ者アル間ハ中立ノ利益ヲ享有スヘシト規定シ第三條ニ斯ル人員ハ敵軍ノ占領中ニ陥ルトキト雖モ依然其病院ニ於テ各自ノ本務ニ從事シ得ヘク其任意ニテ本國軍隊ニ加ハスントスルトキハ交戦國ハ之ヲ敵ノ前哨ニ送致スルノ義務ヲ有ストセリ是レ完全病者傷者ヲ完全ニ保護セんとセリ

醫師其他救護ニ従事スル人員ヲ不可侵ト爲スノ必要アルヲ以テナリ又海上ニ於テモ赤十字條約ヲ海戰ニ應用スル條約第七條ニ交戦國艦船ニシテ對敵國ニ捕獲セラレタルトキハ其艦船内ニ在リテ救法醫療及ヒ看護ニ従事スル人員ハ必要アル限り引續キ其職務ニ従事スヘク首席指揮官ニ於テ妨ナシト認ムルトキニ至リ退去スルコトヲ得ルコトトシ其國ニ在留シテ職務ニ従事スル間ハ給料ヲ受クヘキコトト規定セリ

陸軍病院ニ所屬スル器具什物等ハ其病院ノ附屬ニシテ之ニ奉職スル人員ノ所有ニ非サルカ故ニ其病院カ敵國ノ手ニ陥ルトキハ病院ノ建物ト共ニ占領軍ニ使リ共ニ保管セララルヘキヲ以テ赤十字條約第四條ニ該病院附屬ノ各員ハ其退去ノ際各自ノ私有品ヲ除クノ外爾餘ノ品物ヲ携帶スルコトヲ得スト爲シタルニ拘ハラズ戰地假病院ニ於テハ其病院ノ器具什物等ヲ保有シテ退去セシムヘキモノトセリ是レ畢竟スルニ固定ノ陸軍病院ハ占領地ニ附著スル國有財産ニシテ其病院ニ所屬ノ物品ハ軍隊占領ノ法則ニ依リテ支配セララルモノナレトモ戰地假病院ハ固定ニ非ス又中立ノ特權アルカ爲メ其器具什物等ハ敵軍ニ於

テ之ヲ押收スルコト能ハサルカ故ニ同病院ニ所屬ノ各員ハ之ヲ保有シテ退去セシムルコトト規定シタル所以ナリトス又同一艦旨ニ基キ軍用病院船其他ノ病院船ハ不可侵ナレトモ若シ戰爭ノ法則ニ違反シテ捕獲セラレタルトキハ其船内ニ在リテ救法醫療及ヒ看護ニ從事スル人員ハ勿論軍艦其他交戰國ノ船舶カ敵國ノ爲メニ捕獲セラレタル場合ニ於テモ其艦船内ニ於テ同一事業ニ從事スル人員ハ赤十字條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約第七條ノ末文ニ依リ各自ノ所有ニ屬スル物品及ヒ外科用具ハ攜帶シテ退去シ得ヘキコトト爲ヒリ軍病者負傷者ヲ救護セントモ其患者ノ身軀ニモ保護ヲ加ヘサルヘカラス赤十字條約第六條ニ負傷又ハ疾病ニ罹リタル軍人ハ何國ノ屬籍タルヲ問ハス陸軍病院又ハ戰地假病院ニ於テ之ヲ接受看護スヘク司法長官ハ負傷者タル敵國ノ兵士ヲ戰爭中敵軍ト協議ノ上其前哨ニ送致スルコトヲ得ルコトトシ又治療ヲ加ヘタル後兵役ニ堪ヘスト認メタル者ハ其本國ニ送還スヘク其他ノ者ト雖モ戰爭中兵器ヲ帶ヒタル條件ヲ以テ本國ニ送還スヘク其退去ノ際ニハ之ヲ率フル人員ト共ニ完全ナル不可侵ノ待遇ヲ受クヘキコトヲ規定シタルハ前述ノ如シ

戰爭中中立ノ待遇ヲ受クヘキ陸軍病院戰地假病院其他病傷者ノ屯在所及ヒ其移轉ニ當リテハ敵國ノ交戰者カ容易ニ之ヲ識別スルノ必要アルカ故ニ赤十字條約第七條ニ知レ易キ一様ノ旗ヲ樹テ且其近傍ニ必ス國旗ヲ掲クヘク又中立員タル人員ハ臂章ヲ附著スヘキコトトシ其旗ノ徽章及ヒ臂章ハ白地ニ赤十字形ヲ描ケルモノナルヘシト規定シ臂章ハ濫用ノ虞アルカ故ニ交戰國ノ陸軍官衙ニ於テ之ヲ其資格ヲ有スル各人ニ交付スヘキコトトセリ總テ此等ノ規定ハ交戰國雙方ニ於テ嚴格ニ遵守スヘク決シテ之ヲ濫用スルコト能ハス更ニ又赤十字條約ノ規定ハ陸軍ニ附屬スル病院ニ限ルモノナレトモ我々赤十字社ノ如ク同條約ノ趣旨ニ基キ國民一般ノ意思ニ依リ設立セラレ列國合同事業トシテ一般ノ承認ヲ經タルモノモ亦其特權ヲ有スヘク日清戰爭中我々赤十字社ハ國家的事業トシテ我國軍人ヲ看護シタル外中立的事業トシテ清國ノ病傷者ヲモ救護シタルハ其一例ナリ又海戰ニ於テ不可侵ノ待遇ヲ有スヘキ軍用病院船及ヒ交戰國ノ商人又ハ公認セラレタル救恤協會ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部ヲ負擔シタル病院船ニシテ之ニ官シ命令ヲ付シタルモノハ其使用ニ先テ敵國ニ之ヲ通

告シ中立國ノ商人又ハ救恤協會ノ病院船ナルトキハ交戰國雙方ニ之ヲ豫告ス
 (ハ)就中軍用病院船ハ外部ヲ白地ニ塗リ幅約二メートル半ノ綠色ノ條線ヲ施
 シ其他ノ病院船ハ白地ニ同幅ナル赤條線ヲ加ヘ兩種ノ病院船ノ國旗ト共ニ赤
 十字旗ヲ掲クヘキコトセリ(赤十字條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約第五條)
 赤十字條約ニ於テハ以上述ヘタルノ外戰地ニ於テ商人カ病傷者ヲ看護ヲ爲ス
 者ニ對シテ特別ノ保護ヲ與ヘ第五條ニ負傷者ヲ救助スル土地ノ人民即チ戰地
 ニ於ケル人民ヲ侵スコトヲ得ス且之ヲシテ其救助ノ自由ヲ得セシメサルハカ
 ラストシ又交戰國ノ將官ハ其慈善ノ舉ヲ懲惡シ且慈善ノ舉ニ因リテ中立タル
 ナ得セシムルコトヲ豫告スル責アルモノトシ戰地ニ於ケル人民カ家屋內ニ負
 傷者ヲ接受シテ之ヲ看護スルトキハ其家屋ヲ侵スコトヲ得ス又自己ノ家屋ニ
 負傷者ヲ接受スル住民ハ戰時課税ノ一部ヲ免レ且其家屋ヲ軍隊ノ宿舍ニ使用
 セラルルコトヲ免ルヘシト規定シ海戰ニ於テハ中立國ノ商船遊船又ハ端舟ニ
 シテ交戰國ノ傷者病者若クハ難船者ヲ搭載シ又ハ收容スルモノハ其輸送ノ事
 實ノ爲メ捕獲セラルルコトナシトセリ(赤十字條約ノ原則ニ海戰ニ應用スル條

約第六條

交戰國ノ病傷者ヲ中立國ノ領土ヲ經由シテ本國ニ運搬スルニ付テハ普佛戰爭
 中白耳義國カ普爾西國ニ對シテ之ヲ拒ミタルヨリシテ問題ト爲リタレントモ
 ナルモ其宣言並ニ平和會議ノ陸戰ノ法規慣例條約ニ於テ其運搬ヲ許スコトトシ
 中立國ハ交戰軍ニ對シ同國ニ屬スル傷者及ヒ病者ヲシテ其版圖內ヲ通過スル
 コトヲ許シ得ヘク其許可ヲ與フルニ付テハ其輸送ノ列車ニハ戰國ノ人員及ヒ
 材料ヲ搭載セサルコトヲ條件トシ中立國ハ之カ爲メ必要ナル保安及ヒ監督ノ
 處置ヲ施スルコトヲ交戰國カ乙交戰國ニ屬スル傷者及ヒ病者ヲ中立國版圖內ニ
 伴ヒ來リタルトキ中立國ハ之ヲ監督シテ再ヒ作戰動作ニ與ルコト能ハザラシ
 ヲ甲交戰國ヨリ依頼ヲ受ケタル病傷者ニ付テモ同一義務ヲ有スルモノトス陸
 戰ノ法規慣例ニ關スル條約第五九條第六〇條此故ニ其病傷者ヲ運搬シテ中立國
 ニ於テ許可シ得ヘキモノハ甲交戰國カ自國ノ戰闘員タル病傷者ヲ戰地ヨリ本
 國ニ運搬スル場合ニ限ルモノトス(第二十二條ニ關シテ)其病傷者ハ其病傷
 戰地ニ於ケル戰闘員又ハ俘虜ノ死亡シタル者ハ其死體ヲ侮辱ヲ加フルコト能

ハスシテ「オッタ」ス「オト」ト陸戰法規第十九條ニ戰地ニ於ケル死體ニ刺奪ヲ加ヘ若クハ之ヲ解支スルコトヲ禁シ第二十條ニ死亡者ヲ埋葬スルニハ其何人ナルヤヲ知ルニ必要ノ證憑ヲ集メタル後ナラサルニカラス且敵國死亡者ニ付キ蒐集シタル證憑ハ敵國ノ軍隊又ハ政府ニ通知スルニシテ規定シ交戦國ハ敵人ヲ死亡者ニ付キ其階級及ヒ資格ニ應シ相當ノ禮儀ヲ以テ之ヲ埋葬スヘク日精戰爭ニ於テハ清國俘虜ノ死亡者ヲ我國軍人死亡ノ場合ト同額ノ費用ヲ政府ヨリ支出シテ陸軍埋葬地ニ埋葬セリ

第三章 陸戰ニ於ケル敵國財產ニ關スル權利

第一節 總則

中世ニ於テ武敵國ニ屬スル財產ハ何レノ地ニ於テモ之ヲ破壞又ハ掠取シ得ヘキモノナリシカ第十八世紀ニ至リ「グワタル」ハ敵國ヨリ受ケタル損害ヲ補償スル爲メ又ハ敵國カ自國ヲ攻撃スルノ資材ト爲ルヘキ物ヲ沒收シ得ヘク敵國ヲ襲メ又ハ懲罰スルニ必要ナル敵國財產ニ限リテ之ヲ取得シ得ヘント爲シ現今

ニ於テハ之ニ一歩ヲ進メ敵國財產中ニ付キ國有ト私有トノ區別ニ依リ其法則ニ差異アルノミナラス財產ノ性質上戰鬪ニ直接使用ノ有無竝ニ戰鬪ノ事情ニ依リテ破壊又ハ押收シ得ルモノト否トヲ區別シ一般ノ原則トシテハ戰爭ノ必要上萬已ムラ得サルノ外ハ敵ノ財產ヲ破壊又ハ押收スルコトヲ得ス陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約第二三條ト號殊ニ私有財產ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス(同條約第四六條)又掠奪ハ之ヲ嚴禁スルモノトス(同條約第四七條)然レトモ此原則ニハ大ナル例外アリテ戰鬪ニ伴フヘキ敵國財產ノ破壊ハ咎ムヘカラサルノミナラス戰爭ノ必要ニ依リテハ軍隊カ敵國ノ國有財產又ハ私有財產ヲ破壞押收スルハ妨ナク殊ニ戰鬪ノ用ニ直接ニ供シ得ヘキ性質ヲ有スル財產若クハ一定ノ財產カ敵人ノ手ニ在ルトキハ直接又ハ間接ニ其戰鬪力ヲ強メ得ヘキモノハ盡ク押收シ得ヘク之ニ反シテ直接又ハ間接ニ戰鬪ノ用ヲ爲ササルカ若クハ其憂ナキモノハ之ヲ破壊又ハ沒收スルコト能ハス又ハ個人ノ私

第二節 戰利品

陸戰ニ於テ敵國ヨリ押收シタル財産ヲ戰利品ト稱シ海上ニ於テ取得シタル敵國財産ヲ拿捕物ト謂フ就中陸戰ニ於テ軍隊ハ戰場又ハ占領地ニ於テ一定ノ例外ヲ除キ敵國有ノ財産ヲ悉ク沒收シ其以外ノ物品ト雖モ敵兵又ハ敵人ノ遺棄シタル物ニシテ軍隊カ之ヲ取得シタルモノハ官有ト私有トノ區別ナク悉ク戰利品ト稱ス

戰利品ト爲シ得ヘキハ動産ニ限リ國有ノ動産ハ一定ノ例外ヲ以テ總テ戰利品トシ私有ノ動産ハ戰國ニ直接使用アルモノヲ除クノ外ハ戰利品ト爲スコト能ハスシテ總テ戰利品ハ之ヲ押收シタル軍隊又ハ商人ニ屬セス其所屬スル本國ノ所有ト爲ルモノトス又戰利品ノ押收ニ付キ其所有權ハ如何ナル時期ニ於テ押收國ニ移轉スルヤト云フニ此點ニ付テハ諸國ノ國法及セ慣例ヲ異ニシ就中押收者カ二十四時間占有スルニ於テ移轉ストノ法則ハ一時有力ナリシト雖モ古來一般ニ認メラレタル法則トシテハ押收者カ其物件ヲ安全ニ占有シタル時期ニ於テ移轉スルモノト看做サルカ故ニ軍隊ノ陣營内ニ運搬シタル場合ハ勿論ナリト雖モ果シテ如何ナル場合ヲ安全ノ占有トスヘキヤハ事實問題ニ屬

ス然レトモ一般ニ言フトキハ押收者カ其物品ノ所有者其他ノ敵人ヨリ自己ノ占有ヲ妨ケラルルコトナク又新ニ敵軍ノ攻撃ヲ受タルカ若クハ不測ノ事變ノ發生ニ因リテ取戻サルルニ非ラレハ同物品ハ敵人ノ爲メ取戻サルルノ恐ナキニ至リタル場合ニ於テ其所有權ノ移轉スルモノト認メ得ヘシ

軍隊又ハ兵士カ戰利品ヲ押收スルハ國家ノ代人トシテ戰國行爲ヲ行フノ結果ナルカ故ニ其所有權ハ國家ニ屬スト雖モ歐米諸國ニ於テハ古來ノ慣例ニ基キ一ハ軍隊ノ戰國行爲ヲ獎勵シテ其押收ノ勞ニ酬ヒ又一ハ此原則ヲ勵行シテ戰利品ヲ押收者ニ分配セサルハ事實上困難ナリトノ理由ニ基キ其全部若クハ一部ヲ軍隊又ハ兵士ニ分配スルコト行ハレ英國ニ於テハ千八百六十四年ノ捕獲規定ニ依リ皇帝ハ大藏大臣ノ勸告ヲ以テ任意ニ戰利品及ヒ拿捕物ヲ押收者ニ分配スルヲ得ルコトトシ米國ニ於テハ大統領カ戰爭ニ際シテハ大元帥ノ資格ヲ以テ戰利品ノ一部ヲ兵士ニ分與シ其他ノ諸國ニ於テモ戰利品又ハ拿捕物ヲ押收者ニ分配スルノ法則アリ是レ固ヨリ各國ノ獨立權行使ニ依リ任意ニ制定シ得ヘキ内國法ノ規定ニ止マリ戰利品カ一旦國家ノ所有ト爲リタル後ハ政府

ニ於テ如何ニ之ヲ處分スルモ國際公法上深ク研究スルノ必要ナシ然レトモ我國ニ於テハ日清戰爭中戰利品ハ悉ク國家ノ財產ナリトノ原則ヲ嚴正ニ實行シ又其實行ニ付キ所謂取締ノ困難ヲ感シタルニトナキハ斯法ノ原則適用上一進歩ヲ促シタルモノト看ルヘク戰利品ノ分配ハ軍隊ノ戰鬪行爲ヲ獎勵スルニ在リトノ説モ實際ニ於テ有力ノ理由ト爲スヘカラザルカ如シシテ戰利品ニ在國有財產ニシテ戰利品トスヘカラザル例外並ニ私有財產ノ戰利品ト爲レ得ヘキ例外ヲ左ニ分説セシ

第一 國有財產

國有財產中土地其他ノ不動產ハ之ヲ押收スルコト能ハス何トナレハ軍隊力戰争ノ進行上之ヲ占有又ハ占領スルニ當リ軍隊自體ニ於テモ之ヲ永久ニ所有セシトスルノ意思ナク若シ其意思アリトスルモ其所有ヲ確實ニスルニ付テハ時効ニ依ルカ又ハ征服若クハ割讓ニ依リ領土權又ハ所有權ヲ取得スルニ非ザレハ自國ノ所有ト爲シ能ハサルヲ以テナリ此故ニ軍隊力戰鬪ノ不動產ヲ其權力ノ下ニ置キタルトキハ單ニ保管者ノ地位ニ立テ其土地又ハ建築物ヲ使用若ク

雜 訊

○離婚ノ訴訟當事者ハ養子カ離婚ノ訴ヲ起ス場合ニ於テハ養親タル夫婦ノ雙方ヲ被告トセザルヘカ然レド認メタル大審院ノ説明ニ曰ク民法第八百四十一條ニ依レハ養親タル夫婦ハ養子ニ對シ共ニ縁組ノ當事者ナルモ因リ同法第八百六十六條ノ訴ヲ提起スル場合ニ於テモ亦其當事者ナルコト自ラ明ナリト云フヘシ蓋シ第八百六十六條ハ主トシテ離婚ノ事由ヲ定メタル規定ナルモ養親タル夫婦ハ離婚ノ訴訟ニ付テハ共ニ直接利害關係者ニシテ之ニ對スル判決ハ合一ニノミ確定スヘキ場合ナルヲ以テ養親タル夫婦共ニ存スルトキハ共ニ訴訟當事者ト爲ルヘキコトヲモ併セテ規定シタルモノト解釋セザルヘカラズト

上(大審院明治三十五年十二月二十日第一民事部裁判決)

○二箇ノ裁判所ノ決定カ同一ニ歸シタル場合ハ再抗告ヲ再抗告ハ抗告裁判所ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ許スモノナリ民事訴訟法第四五六條第二項然ラハ下級裁判所ト上級裁判所トノ二箇

ノ決定カ同一ニ歸シタルトキハ如何ナル場合ニ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルカ大審院ハ曰ク此場合ニ於テ再抗告ヲ爲スル得ルニハ裁判所構成ノ規定又ハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタル如キモノアルヲ要ス(大審院明治三十六年三月十六日第一號民事部決定)

○討論會去月二十一日午後六時又第七回討論會ヲ第三講堂ニ於テ開會シタリ其問題左ノ如シ

一 賣拂ヘリ其一箇ハ友人ノ婚姻ヲ祝スル爲メ丙ニ贈與セリ丙ハ丁ニ對シテ其負債ヲ辨濟スル爲メ右猫ヲ送リタリ此場合ニハ商人及ビ官吏ハ丁及ビ乙ニ對シテ回復ヲ請求スルモノトシテ得ルヤ(中山學士出題)

二 第一點幼者カ金猫ヲ振弄セル當時ニ在リテハ占有ハ何レニ在リヤニ付キ或ハ其幼者ハ之ヲ得テ喜ヒタルニ據リテ觀レハ自己ノ爲メニ

スルノ意思アリシコトヲ推知スヘク隨テ其時ヨリ占有ハ幼者ニ在リト謂ハナアルヘカラスト曰ヒ或ハ其幼者ハ法律ニ所謂自己ノ爲メニスルノ意思ナルモノアルノ理ナシ隨テ占有ハ幼者ニ移ラス依然トシテ商人ニ在リト曰ヒ或ハ幼者ハ常ニ其親權者ノ監督内ニ在ル者ナレハ其監督内ニ屬シタルモノハ其監督者即チ官吏ノ占有ニ歸セルモノト謂ハタルヘカラスト曰ヒ或ハ商人ハ既ニ占有ノ體素ヲ缺キ官吏ハ體素心素共ニ之ヲ有セズ幼者ハ心素ヲ缺ケルモノナルカ故ニ占有ハ何人ニモ屬セスト曰ヘリ

第二點其當時所有權ハ何人ニ屬セルカニ至リテモ亦數派ニ岐レ或ハ官吏說ヲ主張シ或ハ商人說ヲ唱ヘ或ハ幼者ニ在リト論セリ

第三點通行ハカ麵包ト交換シタルノ所爲如何ニ付キ前二點ニ關スル觀念ヲ異ニスルニ隨ヒテ其說ヲ異ニスル或ハ幼者ハ金猫ヨリモ寧ろ麵包ヲ喜バヘキカ故ニ真正ノ交換成立スヘク唯取消シタルヲ得ルモノナリト論シ或ハ其幼者ハ法律行爲ヲ爲スノ意思ヲ有スルモノト認ムルコトヲ得タルカ故ニ法律行爲ハ無効ナリ隨テ是レ他人ノ所有權ヲ竊取シタルモノナリト主張シ或ハ幼者ト雖モ多少ノ意思アリモノナルヲ唯知慮淺薄ナリト論テ禁止アルヲ以テ刑

法第三百九十一條ヲ適用ヲ受タル所ニ於テ取斷ナリト論シ或ハ占有ノ何人ニ
 專屬セザルモノナリシカ故ニ遺失物隱匿罪ニ關テハキモツナリト論シ然レニ商
 人及ヒ官吏ノ取戻權如何ニ付テハ或ハ民法第三百九十三條ニ依リ本權以テ取
 テ商人カ取戻スコトヲ得ヘシト曰キ或ハ官吏ハ幼者ニ代理シテ回復スルノ權
 有ラスト曰ヒ或ハ商人ハ民法第七百八條ニ依リ取戻スコトヲ得ス官吏ハ法律
 行爲ニ因リテ其所有權ヲ所得シタリト謂フコトヲ得タルカ故ニ其取戻權ナ
 シト論シ探決ヲ結果ハ商人ハ本權ニ依リテ取戻スコトヲ得ルベク多數ナリ
 キ古林博士(民法)ニ據ルニ自ニ遺失物探尋者ハ商人ニ據ルニ依リテ
 ○五大法律學校聯合懇賞大討論會ニ本校ノ關係亦同會ニ來ル十九日本校
 内ニ開會スルコトニ確定セリ其問題左ノ如シ
 一 茲ニ公益事業ノ目的トスル團體アリ全國ニ亘リテ數十萬ノ會員ヲ有ス今
 之ヲ社團法人ト爲シニ當リテ定款ヲ以テ各地ノ支部員若干名ツツニ之總會ヲ
 組織スヘキコト又ハ總會ニ代ヘテ其總會ヲ關テヘキコトヲ定ムルハ有效ナ
 レルヤ(富井博士出題) 謝味ニハ對テ其和ヒテ謝答ニ對シテ謝答ニ對シテ

法第三百九十一條ノ適用ヲ受タル所ノ詐欺取財ナリト論シ或ハ占有ノ何人ニモ屬セサルモノナリシカ故ニ遺失物隱匿罪ニ問フヘキモノナリト論シ終ニ商人及ヒ官吏ノ取戻權如何ニ付テハ或ハ民法第九十三條ニ依リ本權ノ訴ヲ以テ商人カ取戻スコトヲ得ヘシト曰ヒ或ハ官吏ハ幼者ニ代理シテ回復スルノ權ヲ有スト曰ヒ或ハ商人ハ民法第七百八條ニ依リ取戻スコトヲ得ス官吏ハ法律行為ニ因リテ其所有權ヲ所得シタリト謂フコトヲ得サルカ故ニ其ニ取戻權ナシト論シ探決ノ結果ハ商人ハ本權ニ依リテ取戻スコトヲ得ルトノ說多數ナリ

○五大法律學校聯合懇賞大討論會 本校ノ催ニ係ル同會ハ來ル十九日本校内ニ開會スルコトニ確定セリ其問題左ノ如シ
 茲ニ公益事業ヲ目的トスル一團體アリ全國ニ亙リテ數十萬ノ會員ヲ有ス今之ヲ社團法人ト爲スニ當リ定款ヲ以テ各地ノ支部員若干名ツツニテ總會ヲ組織スヘキコト又ハ總會ニ代ヘテ其集會ヲ開クヘキコトヲ定ムルハ有效ナルヤ富井博士出題

法學博士

富井政章先生著

再版三月廿一日發行

第二版

民法原論

第一卷 總論 上
 定價金壹圓貳拾錢
 郵稅金八錢
 用紙菊版舶來上質
 下冊 近刊

民法の發布以來途條體に其規定の意義を解釋學的に其原則綱要を説明せるなる好著なきに非ずと雖未だ全部に涉りて學理的に其原則綱要を説明せる者なきは世上一般に富井先生此に見る所あり今や閣下にある好著に從事せられ専心全力を用ひて着々其完成を期せらるる是實に閣下の須要に應じ世人の渴望を充たす弊舖の嘆々稱するを得たり

又は實務に從事せらるる諸君の座右に缺くべからず行政其他諸般の公務に須要なる法律の智識を得んと欲する諸君の爲めにも最も有益なる參考書たる

初版五千部一週間に悉皆賣切れ爾後諸方よりの御厚需に背き居候處今般再版發兌仕候間最初の通陸續御注文被下度候

發行所 東京市神田區一ツ橋通町七番地 有斐閣書房
 (電話本局三百二十三番)

東京法學院發行

獨逸ストラスブルヒ大學正教授 オット、マイヤー氏原著
東京帝國大學法科大學教授 法學士 美濃部達吉君譯

獨逸行政法

全四冊
定價金五圓
郵税金四拾錢

●第一卷三月十六日發賣 ●定價金壹圓貳拾五錢 ●郵税金拾錢
●第二卷五月五日發行 ●第三卷七月發行 ●第四卷九月發行
原書は獨逸行政法學の泰斗現任ストラスブルヒ大學正教授オット、マイヤー氏畢生の大著にして條理明快にして暢達至も晦澁難解の痕なく譯者が斯法
并然 議論卓拔 斯學の一新生面を開きたるもの原著既に空前の名著之に亦
本書は第一卷緒論及總論第二卷以下各論に入り第二卷警察權及財政權第三卷公物權公債權の一
部第四卷公債權の續公 未發の卓見 多し祖案なる原著は遂に善良なる翻譯に加かす原
法權を論し每編前人 著既に歐洲を厭する好著譯者又斯法に精通せる學
士あれば兩々相俟つて完璧を成すものにして我法學研究者の參考書として無上の良書たるべし

發賣所 東京市神田區橋本三丁目 斐閣書房 (電話七三三)

特別法講義錄

第一號
四月一日
發行

- 府縣制.....法學士 松浦鎮次郎
- 市制町村制.....法學士 松浦鎮次郎
- 戶籍法.....法學士 島田 鐵 吉
- 供託法.....法學士 塚田 達二 郎
- 人事訴訟手續法.....法學士 松岡 義 正
- 商標法.....法學士 松岡 義 正
- 郡制(松浦學士)○特許、意匠、商標法(杉本學士)○非訟事件手續法(橫田學士)
- 不動產登記法(鈴木學士)○競賣法(吾孫子學士)○租稅法(若槻學士)○著作權法(水野博士)
- 公證人規則(松岡學士)○執達吏規則(仁井田博士)ヲ掲載ス●每月一回發行●月謝金十五錢

和佛法律學校

四月

特別法講義錄

第一號
四月一日
發行

- 府縣制.....法學士 松浦鎮次郎
- 市制町村制.....法學士 松浦鎮次郎
- 戶籍法.....法學士 島田鐵吉
- 供託法.....法學士 塚田達二郎
- 人事訴訟手續法.....法學士 松岡義正
- 本講義錄ニハ○郡制(松浦學士)○特許、意匠、商標法(杉本學士)○非訟事件手續法(橫田學士)○不動産登記法(鈴木學士)○競賣法(吾孫子學士)○租稅法(若槻學士)○著作権法(水野博士)○公證人規則(松岡學士)○執達吏規則(仁井田博士)ヲ掲載ス○每月一回發行○月謝金十五錢

四月

和佛法律學校

高等科講義錄

每月二回發行
月謝金四拾錢

第六號 (三月二十七日發行)

○憲法ノ性質ニ關スル推問並ニ講演

法學士 竹井耕一郎

○物權ノ混同ニ關スル推問

法學士 田代律雄

○占有權ニ付テノ推問

法學士 田代律雄

○親族ノ範圍、戸主及ヒ家ニ關スル推問

法律學士 鶴 丈一郎

○意思表示ニ付テノ推問

法學博士 梅 謙次郎

○留置權ニ付テノ講演

法學博士 梅 謙次郎

○犯罪ノ定義ニ付テノ講演

法學博士 岡田朝太郎

○犯罪人引渡ニ關スル推問

法學士 秋山雅之介

○羅馬法

法學士 田中 遜

發行所 **和佛法律學校**

發行所 司法省

和佛法律學校

(電話番町百七十四番)

明治三十六年四月五日印刷

明治三十六年四月六日發行

(定價金貳拾五錢)

編輯者

萩原敬之

東京市牛込區牛込通町十番地

印刷者

小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町七番地

印刷所

金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

(明治二十二年十二月九日內務省許可)
(明治三十五年十一月四日三城郡郵便認可) 毎月廿一回一日三日五日六日八日十日十一日十二日
日十五日十六日十八日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行)